

【大久保コンプライアンス推進参与所感】

集計結果について、大久保コンプライアンス推進参与所感は次のとおりです。

新型コロナウイルスの感染拡大に関し、罹患された皆様や生活に影響を受けられた皆様に心よりお見舞い申し上げます。この未曾有の国難が、人々の一致団結した取組によって、1日も早く収束することを願うばかりです。

令和元年度の職員意識調査も90%を超える回収率でした。業務多忙の中、本調査に協力いただいたことに感謝を申し上げるとともに、職員の皆様のコンプライアンスに対するご理解とご協力に改めて御礼申し上げます。

当該調査は毎年恒例となりましたが、皆様が日々コンプライアンスにどのように取り組んでいるのかという評価でもあり、今後の取組のベースとなるものです。この1年間においても、当市でもコンプライアンス事案が起き、より市民の目も厳しくなっています。更に、コロナ禍では、環境変化が激しく、市民からの期待に応えつつ、適正な職務執行を遂行するためにも、市が掲げる「社会的要請への適応としてのコンプライアンス」への取組の徹底を図っていくことが必要になります。

さて、今年度の調査結果について、「組織風土」や「風通し」という視点から考察すると、全般的に過去に比べて改善傾向がみられます。一方で、課題も明確になってきています。私なりの所感を以下に書かせていただきます。

まず、当初の懸案であった、「ハラスメント（セクハラ、パワハラを含む。）」に関して、大多数の職員が当該行為は「ない」と回答しています。具体的な内容に関する設問でも過去3か年と比較しても事案の数は大きく減少しているなど大幅な改善が伺えます。しかしながら、現時点でも「ある」との回答も一定数あります。それらの回答には、「適切な対応ができていない」と指摘している割合が増えるなど、全体的な組織風土の問題から個別の問題へ焦点が当たってきています。管理職の皆さんをはじめ、職場の皆さんが意識的に注意して状況の把握と抑止するための風土づくりを徹底してください。

次に、組織風土についてです。「情報共有が十分できていない」、「上司が適切に対応をしてくれない」との回答が20%近くいます。回答者の40%を占める非常勤職員の方々では顕著にできています。当市の行政は非常勤職員の方々に支えられており、この点については全ての職員への情報伝達を強く意識して行うなど、改善すべきことです。

また、一般職員が実施可能なほうれんそうメールについて「利用していない人」が30%を超えています。そのうちの約80%は「その他の手段でほうれんそうしていた」と回答しており、一つの仕組に囚われることなく、職員一人一人が、意識して情報共有に向けて取り組んでいることが伺えます。

なお、「利用していない人」の約10%が「報告する内容がない」と回答している点も留意が

必要です。コロナ禍では勿論のこと、環境が大きく変化し、価値観が多様化する社会では、様々なことが起きています。報告することが「ない」のではなく、意識的に報告・共有できるように情報を能動的にとっていくことが大事なのだと思います。

そして、市民の期待に応えた業務を遂行するためにも、各部署チームが、それぞれ一体となって、上司部下、同僚、課を超えたコミュニケーションが不可欠となります。

激変環境下だからこそ、今まで以上により一層、環境変化に鋭敏になり、それを職場内で共有し、組織一体となって課題解決に向けて取り組むような職場づくりに励んで下さい。

先の見えない不安にさいなまされる日々ではありますが、市民の期待に応えるということは、どういうことかという職務のミッションの原点に立ち返ること。健全な組織風土を醸成し、全職員が一致団結した取り組みこそが、鎌倉市の未来を創造していくものと確信をしています。そして、今こそ、市民の期待に応えた行政運営を遂行すべく、社会的要請を鋭敏に感じ取りつつ、軸をぶらさず、しかし臨機応変に柔軟な対応をしていくことが求められており、当市が目指しているコンプライアンスを実践する時です。また、皆さんとお会いできる日がくることを楽しみにしています。